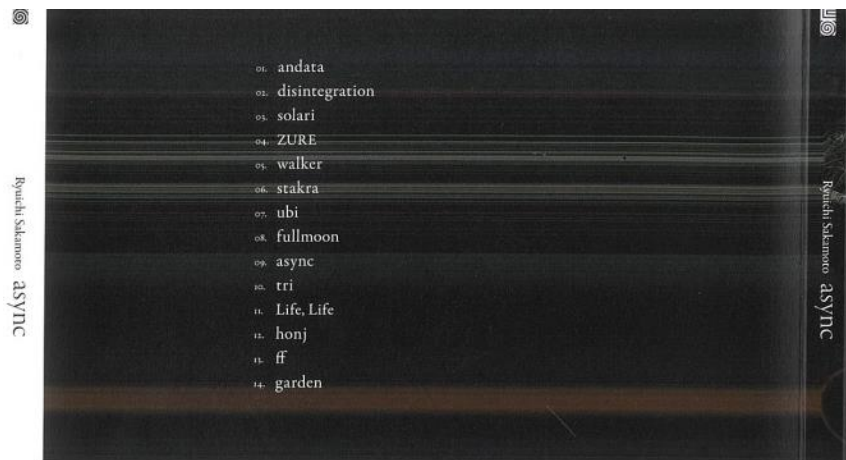


坂本龍一さんと宮農のピアノについて

世界的な作曲家の坂本龍一さんが、プライベートで宮農の旧校舎にいらして、震災で津波に浸かってしまった体育館のピアノを弾いて下さったのは、2012年1月4日のことでした。

(そのときの写真は職員室前の廊下に展示しています)



2017年にリリースされた坂本龍一さんの8年ぶりのアルバム **async** の4曲目 **ZURE** という曲には、広浦にあった宮農の旧体育館のピアノの音が使われています。

坂本龍一さんのドキュメンタリー映画「Ryuichi Sakamoto: CODA」の冒頭部分に、宮農の旧体育館でピアノの音に聴き入るシーンがあります。この映画は2012年から5年間の坂本さんの活動を追ったものです。(2017年11月4日より仙台フォーラムで上映中)

坂本龍一さんが弾いて下さったことがきっかけとなり、このピアノはアート作品に生まれ変わります。

このピアノは旧校舎より農業大学校旧女子寮に運ばれて保存されていましたが、2017年12月9日より東京の初台にあるICGで開催される設置音楽展2「IS YOUR TIME」において、世界の地震と連動して音を出すアート作品として展示されることになりました。

坂本龍一 with 高谷史郎 | 設置音楽展 2 「IS YOUR TIME」

<http://skmtcommons.com/coda/>

坂本さんは、当初「音楽の死」のようなイメージでとらえた被災ピアノの音が、次第に心地よいものとして感じられるようになってきたと語っています。

「人工の巧」の極みとも言うべきピアノは、歴史の中で作り上げられてきた「音楽」とともに「型にはめてきたもの」でもあったのです。

映画の中で坂本龍一さんは「人間が無理やり自分の幻想に基づいて調律した、いわば自然にとって”不自然な状態”に対する強い嫌悪感が僕の中にあると思うんです。」とおっしゃっていました。

人類が歴史の中で蓄積してきた英知を練り上げて作られた「音楽」を奏でるために、木材を型にはめ金属を加工し蓄積された技術の粋を尽くして作り上げた楽器「ピアノ」が、津波という自然現象によって調律し直され、元の物質に還元されながら奏でる音…

CODA をご覧になった多くの皆様が、映画に感銘を受けるとともに、このピアノからインスピレーションを得ておられます。

Ryuichi Sakamoto:

CODA を観て、思うこと

<http://skmtcommons.com/coda/>

がれきとして廃棄されてしまったかもしれない宮農のピアノもアートとして生まれ変わって、新たな歴史を刻むこととなりました。

宮農も来年度からは、完成した新しい校舎で、新たな歴史を刻むこととなります。